
晴れ舞台

もみい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晴れ舞台

【Nコード】

N2097F

【作者名】

もみい

【あらすじ】

今日は幼稚園のお遊戯会。貴重な晴れ舞台の日。ピリピリする麻美と紀子。「ママ達仲良し?」

「あら？まだ全部覚えてないの？こっちは完璧よ」
「ただ覚えてただけじゃない。もつと感情込めないと意味ないと思うわよ」

とある幼稚園。今日はお遊戯会で保護者も沢山来ている。

小さな体育館のど真ん中で、人目を気にせず競り合う二人。彩香あやかの母、麻美あさみと咲菜さきなの母、紀子のりこだ。オドオドしながら止める園長を無視して競り合う母達の姿を、遠くで見ている綾香と咲菜。同じ妖精の役。色違いのフリルのワンピースを着て、小さい羽を背中にチヨコンと付けている。

「ねえ、咲菜ちゃん。この頃ママ達いつも喧嘩してるね」

「彩香ちゃんと咲菜はこんなに仲良しなのにな」

二人は手を繋ぎ、ママの所に行こう、と走り出した。

「本番で足引つ張ったら承知しないからね」

「こっちの台詞よ！まったく・・・何で二人が同じ役なの？一人で充分じゃない！」

「ええそうね！お宅がいなくても充分だわ」

「何ですって？」

「ママ！」

彩香と咲菜がやって来た。二人共目にいっぱい涙を溜めている。

「喧嘩しないでママ」

「そうだよ・・・仲良くしてママ」

そんな娘達の姿を見た麻美と紀子は、ようやく我に返った。

「ご・・・ごめん紀子。ちょっと言い過ぎた・・・」

「うつん・・・私こそ・・・」

園長が控えめに拍手をしながら、よかったですよかったです、と喜んでいる。

「ママ達仲良し？」

「ええ、仲良しよ」

「ほら、おてて繋いでるでしょ？」

すっかり繋いだ手を見た彩香と咲菜は、涙を拭いてニツコリ笑い走って行った。

「ちよつと紀子？手痛いんだけど」

「麻美が強く握るからじゃない」

「嫌だつたら離しなさいよ」

「そつちこそ離しなさいよ」

園長がまたオドオドし始めた。

『はい、いちご組さんよく頑張りましたー』

彩香と咲菜のいちご組の発表が終わった。仲良く手を繋いで戻って来た二人は、客席にチヨコンと座った。隣に居た園長が頭を撫でて褒める。

『じゃあ最後は、先生達とお母さん達の発表です』

劇が始まった。お姫様と王子様の結婚式。森の動物達が二人を祝福して歌いだす。客席の子供達も一緒に歌い、体育館内は大盛り上がりだ。

舞台上で一番後ろに居た二本の木が前へ出て来た。木のデュエツトが始まった。左の木と右の木が違う歌詞を歌った。デュエツトが終わり、それぞれ左右の舞台袖に捌けようとした時、枝が絡まって同時にこけた。枝はなかなか外れず、もがくうちに根っこも絡まった。

見兼ねた先生達に担がれて舞台袖に捌けていく二本の木。

園長は彩香と咲菜にどうフォローしていいのか分からず、頭を抱えた。

「やっぱりママ達仲良しだね」

「うん、おてもあんよも繋いでたもんね」

その言葉を聞いて安心した園長は、再び彩香と咲菜の頭を撫でた。

「木がね、ボクシングやってたよ」
トイレから帰って来た男の子が大きい声で言った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2097f/>

晴れ舞台

2010年10月9日15時23分発行